一誌一句（受贈誌７・８月号他より）

米田　透　抄出

もろもろのひと甦る彼岸かな　（宇　宙）　島村　正

目刺焦がす余命にできること幾つ　（八千草）　山元志津香

天に至る段々畑花蜜柑　（獅　林）　梶谷　予人

風鈴や魑魅のひとつぶらさがる　（　麦　）　対馬　康子

眠る嬰に未央柳の金の籠　（鹿火屋）　原　朝子

定めとも成行きかとも髪洗ふ　（いには）　村上喜代子

雲の峰蹴上がり巴前回り　（　衣　）　金子　嵩

千年の山負ふ石仏風薫る　（　顔　）　川村智香子

熱帯夜無為と曖昧の瞑想　（風　羅）　三木　星童

万緑や木彫りの熊に木彫りの眼　（雪　華）　橋本　喜夫